

週に一度のお楽しみ 健康体操で心と体を元気に

毎週火曜日に福祉館で健康体操（講師：山師矢子美先生）を行っています。1時間半ゆったりと体を動かします。自分のペースで体を動かせるのが魅力で、いつも沢山の人で賑わっています。体操中の先生との会話も参加者の楽しみの一つ。体操後、体を思い切り動かした参加者のスッキリとした笑顔が光りました。



普段と違った夏休み中の保育 幼稚園の預かり保育にワクワク

夏休み期間中、重信幼稚園で預かり保育がありました。預かり保育では、年少児から年長児までが同じ部屋で1日を過ごします。プール遊びをしたり、園児

は普段の保育とはまた違う楽しさを感じていました。昼食時には、お家の人が作ってくれたお弁当を嬉しそうに味わっていました。



スペシャル☆エンジョイタイム こども館で夏祭りを味わう

いagaraこども館で乳幼児・小学生を対象に、スペシャル☆エンジョイタイムが開催されました。夏祭りをイメージした遊びが用意されており、参加者は自分の好きな遊びを楽しみました。中には、甚平を着て参加する子どもたちがあり、「今年は甚平を着る機会がないと思ったので、夏祭りの気分だけでも味わえてよかった」と話しました。

Interview



越智 ひなのさん（写真左）
 相原 夢来さん（写真中央）
 小笠原 綾音さん（写真右）

最後の花の甲子園

本番では、練習でやってきたことを全て出し切れたと思います。3年間の集大成ができました。



花に思いを託して 東温高校華道部が花の甲子園に出場

コロナ禍で、昨年度と同様にリモート開催となった「花の甲子園」地区大会に、東温高校華道部の3人がエントリーしました。1人10分の持ち時間をリレーして制作。生け込み動画、プレゼン動画、

作品写真で審査し、地区代表チームが選出されます。地区大会テーマは「私たちの大切なもの」。3人は「命」と題し、指定花材の他に千日紅やひまわりを使って、平和への思いを表現していました。

小学生から高校生までが交流 中高生ウィークでワイヤークラフト

8月1日から7日までの間、よいいのこども館で中高生ウィークが開催されました。初日には、小学校6年生から高校3年生までの児童生徒がワイヤーで

キャラクターを制作しました。思い通りにならないワイヤーに苦戦しながらも、普段学校では体験できないことを夢中になって楽しんでいました。



パラリンピックへの期待膨らむ 聖火ランタンが東温市に

8月13日に東温市役所で東京2020パラリンピック聖火フェスティバルが開催され、県内3市で採火された火が披露されました。披露された聖火は東京に向けて送られ、一つの火となります。訪れた人は「近く来ると、小さくても熱く強い火を感じました。パラリンピック出場選手や応援する人たちの思いの強さが伝わってきます」と話しました。



1_風景演劇を制作するソノノチの皆さん（代表：中谷和代さん（右2番目））／2_河之内の風景で想像を膨らませる／3_延べ1カ月をかけて地域をまわった／4_河之内地区で住民に聞き取り／5_主要産業であるシキミ栽培の現場を視察した／6_井内地区では出荷作業を手伝った



芸術家が一定期間その土地に滞在しながら創作活動に取り組むアーティスト・イン・レジデンス。東温市で初めて同事業に取り組んだ「ソノノチ」の皆さん取材した。

その後、観た人を幸せな心地にする作品をつくる。「ソノノチ」は創作コンセプトに因んで名付けられたパフォーミング・アートグループだ。京都を拠点として活動は全国に広がる。

「とうおんアートヴィレツジフェスティバル2021」の一環として、延べ1カ月間の滞在期間で創作活動を行う「アーティスト・イン・レジデンス（以下「AIR」）」に取り組み、4月に初めて東温市を訪れた。以降月1週間程度滞在しており、9月25、26日の両日、河之内地区を舞台に『風景演劇』を上演することが決まっている。

「とうおんアートヴィレツジフェスティバル2021」とは、年間を通して美術作品や音楽作品、演劇・ダンス・ミュージカルなど市内各地で多様なプロジェクトやイベントが開催されるアートの祭典。6月にソノノチは地域交流拠点施設人空田（井内）に滞在し、会場リサーチと作品制作、現地での生活をしながら「日常的な風景の中でキラリと光るもの」

に焦点をあて、その場所での瞬間にしか生み出せないパフォーミング作品を創案してきた。

代表を務める中谷和代さんは「地域で実際に暮らす皆さんの話を聞き、想像力を掻き立てるような場所をまわってその土地にしかない空気感を大事に制作しています。東温市にしかない魅力的な風景には、場所自体に物語があり、インスタレーション的に作品を生み出す私たちが得意とする表現が活きる」と話す。

インスタレーションとは場所や空間全体を作品として体験させる芸術手法だ。見慣れてきた地域の風景が芸術作品の舞台に変化する。「奥松瀬川地区を訪れたときの『北の植物と南の植物が一緒に群衆している』という渡部光右衛門さんの話が印象に残っています。東温市全体を見ると山間部と平野部があり、2つの要素が共存している部分にインスタレーションを受けました。これを表現する言葉が『共存』なのか『グラデーション』

なのか…。掘り下げて作品に取り入れたいです」。

ソノノチのAIRを企画運営した地域おこし協力隊の田中直樹隊員は、「東温市ならではの唯一無二の作品を届けたい。アーティストの活動を通して今まで気づかなかった東温市の魅力を感じてほしい。そんな思いの詰まった企画です。実際に滞在し、地域と触れ合いながら創り出すノンバーバル※な演劇は全国的にも珍しいです。何気ない風景がアートによってどう変化し、何を魅せてくれるのか。ソノノチさんの作品は地域のもう一つの姿に気づかせてくれるはずですよ」と期待を寄せる。

中谷さんは「私たちの作品は、舞台だからといっても一大エンターテインメントのような派手な音響や照明はありません。明確なメッセージや大きな変化があるわけでもない。上演したその後に、日常の風景や場所が少し

違ったものに見えるようなものです」と解説する。ソノノチの作品を観た人は「時間をゆっくり感じるようになった」「その風景がくっきり見えるようになった」と感じるそう。ソノノチでは「解像度が上がる」と表現している。

「少し物足りないと思う人もいるかもしれませんが、こういう表現方法もあることを感じてほしいです。皆さんの想像力を掻き立てる作品になれば」。演劇作品自体ではなく、風景も含めて地域にあるものを使ったソノノチ独自の表現に注目したい。

～風景演劇プロジェクト～ 風景によせて 2021 かわのうち あわい

- ◇日程…9月25日㊤、26日㊤① 11時～、② 16時50分～
- ◇場所…惣河内神社及び周辺（河之内）
- ◇観覧料…1,800円／人、高校生以下無料
- ◇駐車場…金毘羅寺駐車場
- ㊤東温アートヴィレツジセンター
- ☎ 990-7210（定休日㊤）

※言語を使わない。非言語。